

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書2章13～23節＞

① 旧約の預言が実現した3つの話。マタイが伝えたかったことは？

お生まれになった後のイエス様の後日譚です。大きな特徴は、記された3つの話全てが「旧約の預言の成就」として報告されていることです(15, 17, 23)。マタイが伝えたかったことを追いましょう。

② (13-15) 罪深い人間を救って下さるイエス様を思わされる所まで！

神様から御告げがあり、ヨセフとマリアはイエス様を連れてエジプトに逃げました。それはホセア書11章1節の言葉が「**実現するためであった**」(15)とマタイは説明しています。その個所を読むと、神様によって助け出されたイスラエル人が、その後、神様から離れて行ったことが記されており、どこまでも父なる神様を信頼し通されたイエス様との違いを考えさせられます。私たち人間の罪深さと、私たちを救って下さるイエス様との違いまで考えさせられる元の箇所との出会いです。

③ (16-18) ヘロデの幼児虐殺に神様の冷たさを見るのは間違い！

イエス様が逃げたから大勢の幼児が虐殺されたと考える人、また、この虐殺を止めない神様に不信を抱く人がいるかもしれません。しかし、ここでは「**言われていたことが実現した**」(17)と、前とは違う表現でマタイは記しています。それは、神様が計画されていたことが成ったという意味ではなく、人間が起こすひどい行為がこの時に起こったということの意味しているのです。元のエレミヤ書の箇所では、繰り返し神様に向き直すように告げられたのに聞かない中で起こったバビロン人による虐殺を指しています。元の箇所ではそれだけではなく、さらにそのイスラエル人を救うことを神様が考えて下さっていることも知らされるのです(エレミヤ書31章15。31節「**新しい契約**」!)。神様に文句を言っていた自分が恥ずかしくなる、憐れみ深い神様を知らされるのが聖書なのです！ 真つ暗な出来事の先に神様の希望を見出せる話なのです！

④ (19-23) ナザレは旧約聖書には出て来ない。真の救い主らしい方！

ナザレは旧約聖書には全く出て来ない無名の地です。またここだけ「**預言者たち**」(23)と複数形で、ある個所からでなく聖書全体から聞き取れる内容を示しています。「**ナザレ人イエス**」(新約多出)はまさに聖書の神様の預言全体の成就にふさわしい救い主ではないでしょうか！